

## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

聖 和

經濟學部  
研究室  
5Z  
2143

閑書



55267

一 四郡境平川附之例之不用之

一 四郡境官庫之修築或水懐等

一 官庫之修築四郡入山伐双方

書載之双方在外之院披之如右

編不中更不可為院事

一 四郡境少者通より官舎見通不可為院

一 皮膚之怪果に漏れし事多し雖書取  
 一 一方今之載之対に從授之小  
 切ありし勿論今載之方理運多深  
 一 國初山福水之出者通浪軍境なり  
 一 先年之載評給系朽損し由是由  
 切所相子之方係系上後之有者得快

表書一在合平敬也

山野入倉村境論

一 双方證授證之出入道筋或中吳  
 亦志孝之より古尼通し水懐吹方  
 一 十田畑境每利  
 一 死馬捨場と村境と不及沙汰小を付

入念た家屋

一 内山厩村小の地先之邦志入念地先

内山境路之地先之古田等村之

うち山多梨

一 入念より数十年前新築の地先

地先が経年経たるに及荒之年貞地先

材入念より架可為納之

一 地先よりこの左近東之新開地先

荒之入念場(道多)之入念地先

之證據を用之

奥樺海川境

一 川名附が流る海の中奥境

川向小有来地而任先親在比邊

一 奥梳藻草中奥障り取之

一 藻草に浸漬せし揚場を名別れ

地先を名取

一 藻草に浸漬せし揚場を名別れ

一 沖菜船運上納小坊を川通地村名

一 無名別船梳波之波之村名村名限之

一 船梳入官場固境之無名坊名

一 藻草藻梳場に名取し禁之

一 磯梳名地附根附波沖名入會

一 小梳山之近浦之例小坊沖梳名

新親名之

一 浦役亦有之に如くは他村系之浦役と  
いふ之は濱権入會之例也

一 川附寄之事大水如く自然に川瀬  
邊の馬外之新田而も見取場は小成  
秣場河原焼也其之旨も之地も附寄  
事也

一 双方为持地於今も

公儀上取上之村中又も右取上之村也

一 本産も双方互合仲也

一 當時田水不引之古來も總合雜也

事一禁之

一 往來之指當法細新規也村に例有之



一 用水人足法色組合想系別合之

一 堤重空留世有之別之

一 先地頭領主之帳面其外古來之書付

無中歎之之古也達成不用之

一 若新字字之控授不用之

一 達成書付之之亦不皆之控授不用之

為控授也若古戸ノ不拂

一 人馬相對少之物未上之

公没之外不若滞勒之理

一 人馬继续来之外様ノに招道通路

停止之

一 諸荷物小賣子馬之附通之小書海

多しとて之を得可也之招性還ハ勿論  
たれ

一 商人ハ賣渡と法若物子ヨリ馬儀  
場成附毎ヨリ禁ニ

一 招道小おわく

沖来印之外雇人足ノ分及至以

一 性還之若物性此等小能居清法也科

一 市場村境迄也

一 父養子以取一 跡式極全トおわると

實子たりと之取式不續之

一 史死後後家以外一 家トおわくと史之  
名取可取續極等ノ為同者可取續之

- 一 重病之初一判違状不用取之
- 一 解養子離縁之上名生出之男子は丈  
之方(可)取之引出物未取申返之
- 一 丈死後後家(養子あり)無家之(古  
お不成成後家(位)可取離縁物之
- 一 丈之極旨訴式丈死後後家(位)外(

可儀介物之

- 一 養子婿(者)ハ所(少)なり(半)金
- 一 妻之法道具持(余)金相返上(名)離別  
之儀丈(公)証(物)有(る)
- 一 外之(如)後妻に可取(た)る(名)の離別  
小(お)お(く)ハ右(之)廿(二)妻に可取(ら)る(名)勿(得)

出入とせらるる

一 懐胎小比古離別し申と申し人懐胎也  
お産く上男子と申し方上り別れ女子ハ  
妻のしこく産む種し

一 離別状雖も在申の方より二年通次  
おふ波も外へ嫁かた先申し申分経立

一 離別し發撫せく女席親元へ糸居お果し  
しを法道具持来し由細小次子孫承承及  
返小次の人承承た承し

一 女席流しに子細お立お彼お出る女の  
親元へ諸及承承返し

一 去状不取上り又流し承承及承承

一 丈成婚の誓を切らぬ事と誓ふ由  
女房中又も丈中をなすに於て是  
なり縁を切古例

一 久離懐小能附之久離能波出者子引死  
人坐之其之離の差別あり其状類  
類家

一 欠落之由能波切當之由少くとも  
外小可引取者おほくも親元又も親類  
引渡之

一 離別交切成又女取不欠落引取人  
類事と云一度丈の事(お席はとて  
公次方あり)

一 且如寺に不似合正能成彼言ヲ難且  
以レ此レ少カク其レ不及師且沙法

一 心願有ク其身一代能成彼言ヲ先ク

一 父ク造言有ク其政家可レ為ル心カ

新羅不師依ル心カ

一 難且ク上石塔進引取也ノ教也カ如ク

師且ク不及沙法

一 難且ク證入押名程官取死少新拂

其京上ノ心カ怪ク心カノ

一 女子名母の家門成例是ク

一 臣職出入心カ之レ在宗旨證入命取可

差是渴心カ青甜ク之レ官形是證入命

卷一

一 前菩提寺（即前所記）家自燈（又自記）後（不）  
相（不）戶（不）

一 開基因（即）寺（不）地（不）

一 新寺院（即）地（不）

公儀（不）上（不）其（不）名（不）經（不）戶（不）

一 寺法（不）名（不）寺（不）名（不）書（不）名（不）戶（不）

門（不）於（不）名（不）及（不）上（不）戶（不）

一 我（不）寺（不）名（不）戶（不）

一 前菩提寺（即）換（不）不（不）兼（不）地（不）戶（不）

其寺院（不）通（不）塞（不）

一 基（不）寺（不）一（不）村（不）成（不）相（不）續（不）

當地之年貨傷心

一 若不加平之說文名取上之貨物

為之時之平以加平之平在上之

一 若不加平之說文名取上之貨物

一 宛新之說文名不用取之年貨

同前

一 年貨未進之由地貨地之

之在在上之賣押代金之地貨年貨

未色活課殘金之全之刻錄之

一 貨地年季之同不文之地貨流地

之取證之入有之貨地證之通中

一 養子之借金名之養子取來之



一 先任之借金当領不極者中之一は先任之  
不及沙汰古例

一 先任之借金当領不極者中之一は先任之  
借金之有之は既被消済者も其の  
相付之は当領亦不極人爲御之古例  
一 借金当領不極者中之一は先任之

一 友人連判少之金子借更此礼之人  
於其果之半借金当領之被返金之は  
借取書之不取証当人欠爲上  
其禮授之は之残之人分更金当領之  
一 證文付書之代金之は其証金之は其於  
其更金当領之

一通例之貸金銭奉公人請状之徳信金  
程中之実名奉公人上七等之右場付  
請状之取上之右場之為後信文書之月  
為是科貸金取上之

一 沖糸印地田畑貸地より取出申  
偏止之

一 取上田畑沙拂り付双方に現物貸付  
少額者其年々以付出方名付出者  
右之旨（收納九年負信及勸之

一 裁許難治之との事合或名手次  
中付裁許申上之旨申出名級免之  
一 程立程及強科名別戸入田畑取上

不拂或名追放

一 先裁译成中经之如为くハ戸ノ  
手漢或名追放

一 先裁译成中经之如为くハ戸ノ  
手漢或名追放

一 地頭又名支配有裁译成中经之如为くハ戸ノ

手及強弱名戸ノ不拂追放

一 立會給果久安如译成中经之如为くハ戸ノ  
許詔名教免之

一 町人百姓口如常之如为くハ戸ノ  
在追放

一 追放不拂之如译成中经之如为くハ戸ノ

或名遊放

一 擬中宵の銀差帯のその銀差

取上手換

一 若皇没後石上浪人の由偽銀差の

以名遊放

一 擬銅場にちち繩張の江あそびと科

其詞の若皇戸女或名遊放

一 擬銅場に教生人有く紫衣の如政名

村中(過急)の多妻書(秋遊)の

為初之生而之跡(江)の如(地)の没

放(一)

一 銅村の多遊立の如(戸)の如(一)

追立山若魚急之——と名を（）  
見か——山若は山廢英金部へ  
一 隠決地は彼高臺の田畑を上新拂  
口入人たる魚科若名組頭を政司と  
し、  
村中たる急魚科  
中村へ

一 御倉場也之隠決地抄とありて  
急魚科若名組田畑を彼高臺と云ふ魚科  
村中たる急魚科若名組中村之隠決地抄  
右捕山若ハ山廢英浪部へ  
一 極小急魚の急魚科若名組の彼高臺と云ふ  
組名魚科

一 欠落との成因並に之に及ぶと科

或名戸ノ

一 願立の交代料拾と云一 経師之名

と科

一 奉許詞の中付備中少少ありて其品

恒よりと科

一 度々差紙申更不意と若し其品恒より

と科或名と急小若給と或と字令

一 相子お果器押隠お子取妻判五と小

切おとと科

一 難立依其波強得と其品恒よりと科

一 沙代皮地取より味と月如波強得と

も科

一 二重貨取並みの返科

一 不増成中かお子大勝心するもの

あつても過科神木ありてを入る中

地より埋立より於代採る神一

遍塞

一 他村之者を付くものより出入推の

於科ありて

一 重に割壊し後よりを前方に

お止る過科

一 其科を重くしてを後より重くするを

お徳といふ

一 目安表判を似よの、中中々集  
類々田畑家残取上り拂

一 發文少人言請人等名別奉公人  
無抱ゆり戸人

一 押る縁組之度あり暮ハ中人  
各物人云じ手次

一 子守之内急業者たりと云  
教書之仕方おふ場も戸人右之院迄  
可仕之の至場亦に出合ふ事  
おあゝ追放

一 追放之儀を存知し構心  
差出ると不辨



一 御法度之家方成多事と勘紙  
く上教先右住官も増く事  
と科

一 御成先小物と家西と出科  
上

一 出家願人産後稗多段

公儀不及沙住金取共住弱取  
吏く小川渡法と通不渡者中渡

一 人殺と依り渡也と滞りして不許出  
とよのふ不拂名と没義取上言又經  
同日内院言茶の青院内門

一 手負人と不許出と事と人組

過科外名目多し

一 用門教免可なり付と云ふは又月代

利出と云ふは又用門

一 貸金百とも不知更人より返す

にありと云ふ

一 割判後不致持来ぬと云ふは物持返す

利銀

上儀に反上

一 当分之事不致又上と云ふは金主

貸金と云ふは建家と云ふは年利に

加五破と云ふのはと云ふは造作と云ふ

為返す

一 高賣之仲間法成省之取方之料  
一 口端之場(お合)未擲之者代限  
五上不拂

一 五科中付出之右果伴法之  
お人組お出之右果伴之延引之  
右之六押也

一 新規系法成法(お)村(送)之  
お方之(取)取其村之(右)右取放  
不拂

一 五中地材(お)人(出)之(右)右  
保法(お)お取(出)取(古)古例

一 先弱成(お)村(之)之(右)右(取)取(古)古例

以法之妙也  
進放

一 可至割也  
其通以之  
一 進放及出入

少者若之  
没等取上戸  
必為同也

一 師匠より  
弟子に傳へ  
其業構は  
傳へ

一 可為也  
進放

一 進放  
其業構は  
傳へ

死罪或は  
重罪又は  
進放

進放  
其業構は  
傳へ

一 地頭より  
進放と  
取らるる  
及進放

おわ  
るる  
進放

一 お家  
の業  
傳へ  
由不  
進放

進  
放



一 百姓之中女被殺通上付女人在  
至人切殺とて百姓小不似合  
仕形<sup>ニ</sup>身<sup>ノ</sup>戸ノ古例

一 至人<sup>ノ</sup>女屠割居<sup>ル</sup>和<sup>ル</sup>忠<sup>入</sup>又<sup>忠</sup>  
活書<sup>書</sup>上<sup>上</sup>お<sup>お</sup>わ<sup>わ</sup>く<sup>く</sup>死<sup>死</sup>罪<sup>罪</sup>古<sup>古</sup>例<sup>例</sup>

一 至人<sup>ノ</sup>後家<sup>と</sup>お<sup>お</sup>殺<sup>殺</sup>殺<sup>殺</sup>妙<sup>妙</sup>ハ<sup>ハ</sup>人<sup>人</sup>

延致古例妻<sup>中</sup>人<sup>ノ</sup>被殺<sup>妙</sup>忠<sup>忠</sup>  
中<sup>中</sup>人<sup>人</sup>志<sup>志</sup>引<sup>引</sup>上<sup>上</sup>獄<sup>獄</sup>門<sup>門</sup>妻<sup>妻</sup>引<sup>引</sup>  
上<sup>上</sup>ノ<sup>ノ</sup>死<sup>死</sup>罪<sup>罪</sup>

一 妻<sup>と</sup>殺<sup>不</sup>他<sup>法</sup>身<sup>身</sup>男<sup>男</sup>女<sup>女</sup>と<sup>と</sup>小<sup>小</sup>  
切<sup>切</sup>殺<sup>殺</sup>と<sup>と</sup>妻<sup>妻</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>不<sup>不</sup>極<sup>極</sup>と<sup>と</sup>妻<sup>妻</sup>と<sup>と</sup>  
敵<sup>敵</sup>討<sup>討</sup>ハ<sup>ハ</sup>是<sup>是</sup>殺<sup>殺</sup>中<sup>中</sup>身<sup>身</sup>延<sup>延</sup>致<sup>致</sup>古<sup>古</sup>例<sup>例</sup>

一 下人は不法に彼を殺す人の思ひ  
よりを為す

一 彼形と可有く幾代卒忽の任歎  
少くも彼殺害と云ふを為す或は  
遊戯

一 女房欠落と云ふ又未対と云ふ

夫婦と云ふは新葉(永冬)  
云下

一 至人の娘成中合と云う誘ふに  
好むと云ふ不拂

一 夫有る女奉ると月傍某と遊技  
盗魚と男女死罪古例

一 丈夫と不対の者と夫婦と如く  
あつては死罪丈夫と義不存と之を  
追放古例

一 姑もやりぬる虚説中出しれ義  
不存の業は法に於て流布と引回  
く上死罪古例

一 父母小対し世に義不存と如く  
死罪

一 盗とものとは存賣拂又は貨物と  
盗と若死罪

一 橋其外くかゝるものも盗取との  
入善と月と追放



一 重臣科としての為業者は指したる  
おわくは幸い

一 邊下波と忍入の地を幸い

一 至人との妻と密通の罪中人の命

の弟丈は罪人の下子の中村

女と新吉原の(子)幸は浪波

一 酒狂の上伯父の病附病平金は

甥の死罪

一 女房の病付病平金はと理

己の二付門前拂

一 父母の討し不敵不孝は

おわくは幸い追放

一 審吏と申合申吏申か致教害不  
女房引包の上礫審吏獄門

一 組下と申の晴美の若方彼若陽  
く月名く割江代及合申使と申  
家来大傳在若方彼打擲柴不掃押  
殊不為不海が其上取取と申成

差系と申く欠落が彼山若方ハ於  
申利小引包の上獄門

一 晴美と若仕割自分為と申く  
右申使代吏及打擲柴不掃押  
死罪

一 右申使代取取若ハ死罪を介

赤擲のよりのハ遊放推のよりのハ  
田畑取上不拂

一 前方針ありて遊放のよりのハ赤擲  
の場ありて遊放のよりのハ赤擲  
の場ありて遊放のよりのハ赤擲  
の場ありて遊放のよりのハ赤擲

元のよりのハ遊放





